

8 相談窓口の充実

差別や人権侵害を未然に防止することが最も重要ですが、起きてしまった差別事象については、事実を真摯に受け止め、市民に信頼され、活用してもらえる人権相談窓口の周知や人権擁護体制の確立をはかることが大切です。

市では、人権ふれあいセンターを中心として相談内容について適切な対応ができるよう、職員の資質向上をはかるとともに、他部署との連携に努めています。

心の傷（ごめんね…）

小学校時代のできごとです。この頃は、家の前の道路は舗装されておらず、車も通っていませんでしたので、学校から帰ってくると道路が遊び場所でした。近所の子どもたちと鬼ごっこや缶けり、チャンバラなどで遊んでいました。

ある日、友だちと鬼ごっこをしている時でした。夕方になると毎日といっていいほど隣町から豆腐屋さんが、自転車の荷台に豆腐が入った大きな箱を付けて、ラッパを鳴らしながら売りに来ました。いつもはおじさんが売りに来ていましたが、その日は、中学生ぐらいの子が売りに来ました。いつものおじさんのように「トーフ・トーフ」と調子よくラッパの音が響かず、「トッフ…」というような音でした。友だちが、「変な音、それじゃ豆腐売れねえぞ」と言うのをきっかけに、皆でその子を囃し立てました。その子は、すごいスピードを出して走り去って行きました。次の日、遊んでいると、昨日来た子がまた豆腐を売りに来ました。自転車の横に長い棒を付けていました。私は「何で棒を付けているんだよ。俺たちを叩くつもりか。」と言いながら、皆と一緒に自転車の後を追いかけて行きました。10メートル程追いかけていったところ、それを見ていた近所のおじさんが、急に足を出したので、その足に引っかかって転んで一回転してしまいました。「ばかもん、かまうんじゃねえ」と、おじさんは大声で怒鳴りあげました。

その日を境に豆腐を売りに来た子は、全く来なくなってしまいました。後になって聞いた話で、いつも売りに来ていたおじさんが、病気で寝込んでしまったので、代わりに子どもが売りに周ってお店を助けていたということが分かりました。「まずいことをしたなあ」「すまなかったな」という気持ちで、今度来たら謝ろうと思っていましたが、それ以来会うことはありませんでした。今でもそのことが、心の傷として残っています。

（人権教育指導員 宮入文雄）